

表IV-5 看護基礎教育卒業時の到達目標についての「適切性」への同意の有無(デルファイ第1回調査結果) 続き

No	到達目標	教育者 (N=91)				看護実践者 (N=98)				全体 (N=189)			
		同意する		同意しない		同意する		同意しない		同意する		同意しない	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
73	学内で酸素ボンベの操作ができる	78	85.7%	13	14.3%	83	85.6%	14	14.4%	161	85.6%	27	14.4%
74	人工呼吸器のメカニズムがわかる	69	76.7%	21	23.3%	68	69.4%	30	30.6%	137	72.9%	51	27.1%
75	人工呼吸器装着中の患者の観察点が変わる	75	82.4%	16	17.6%	66	67.3%	32	32.7%	141	74.6%	48	25.4%
76	低圧胸腔内持続吸引のメカニズムがわかる	80	87.9%	11	12.1%	72	74.2%	25	25.8%	152	80.9%	36	19.1%
77	低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察点が変わる	79	86.8%	12	13.2%	70	71.4%	28	28.6%	149	78.8%	40	21.2%
78	低圧胸腔内持続吸引器の操作の基本がわかる	68	74.7%	23	25.3%	56	57.1%	42	42.9%	124	65.6%	65	34.4%
79	循環機能のアセスメントができる	72	84.7%	13	15.3%	65	67.0%	32	33.0%	137	75.3%	45	24.7%
80	末梢循環を促進する援助ができる	76	87.4%	11	12.6%	69	72.6%	26	27.4%	145	79.7%	37	20.3%
<7> 創傷管理技術													
81	褥創のメカニズムがわかる	84	94.4%	5	5.6%	91	92.9%	7	7.1%	175	93.6%	12	6.4%
82	患者の褥創発生の危険をアセスメントできる	83	93.3%	6	6.7%	87	88.8%	11	11.2%	170	90.9%	17	9.1%
83	褥創予防のための基本的ケアがわかる	87	97.8%	2	2.2%	93	94.9%	5	5.1%	180	96.3%	7	3.7%
84	褥創予防のためのケアが計画できる	77	86.5%	12	13.5%	81	82.7%	17	17.3%	158	84.5%	29	15.5%
85	褥創予防のためのケアが実施できる	66	74.2%	23	25.8%	65	66.3%	33	33.7%	131	70.1%	56	29.9%
86	学生間で基本的な包帯法が実施できる	72	81.8%	16	18.2%	91	92.9%	7	7.1%	163	87.6%	23	12.4%
87	学内演習で創傷処置のための滅菌操作ができる(トレーン類の挿入部の処置も含む)	80	89.9%	9	10.1%	82	83.7%	16	16.3%	162	86.6%	25	13.4%
88	創傷処置に用いられる消毒薬の特徴がわかる	81	91.0%	8	9.0%	78	80.4%	19	19.6%	159	85.5%	27	14.5%
89	創傷の状態に応じた創傷保護材の特徴がわかる	73	83.0%	15	17.0%	59	60.8%	38	39.2%	132	71.4%	53	28.6%
90	患者の創傷の観察ができる	78	89.7%	9	10.3%	79	82.3%	17	17.7%	157	85.8%	26	14.2%
<8> 与薬の技術													
91	経口薬の作用機序をふまえて、服薬後の観察ができる	77	90.6%	8	9.4%	75	80.6%	18	19.4%	152	85.4%	26	14.6%
92	経口薬の服用方法がわかる	86	94.5%	5	5.5%	92	94.8%	5	5.2%	178	94.7%	10	5.3%
93	経皮・外用薬の作用機序をふまえて、投与後の観察ができる	79	86.8%	12	13.2%	78	80.4%	19	19.6%	157	83.5%	31	16.5%
94	経皮・外用薬の与薬方法がわかる	86	94.5%	5	5.5%	89	91.8%	8	8.2%	175	93.1%	13	6.9%
95	直腸内与薬の作用機序をふまえて、投与後の観察ができる	75	82.4%	16	17.6%	79	81.4%	18	18.6%	154	81.9%	34	18.1%
96	モデル人形に直腸内与薬が実施できる	62	68.9%	28	31.1%	86	89.6%	10	10.4%	148	79.6%	38	20.4%
97	点滴静脈内注射のメカニズムをふまえて、点滴静脈内注射をうけている患者の観察のポイントがわかる	87	95.6%	4	4.4%	85	86.7%	13	13.3%	172	91.0%	17	9.0%
98	中心静脈内栄養のメカニズムをふまえて、中心静脈内栄養をうけている患者の観察のポイントがわかる	84	92.3%	7	7.7%	76	77.6%	22	22.4%	160	84.7%	29	15.3%
99	学内演習で点滴静脈内注射の輸液の管理ができる(点滴セットの交換を含む)	78	86.7%	12	13.3%	75	76.5%	23	23.5%	153	81.4%	35	18.6%
100	皮下注射のメカニズムをふまえて、皮下注射後の観察のポイントがわかる	84	93.3%	6	6.7%	87	88.8%	11	11.2%	171	91.0%	17	9.0%
101	皮下注射のメカニズムをふまえて、皮下注射後の観察のポイントがわかる	87	95.6%	4	4.4%	89	90.8%	9	9.2%	176	93.1%	13	6.9%
102	モデルに皮下注射ができる	72	80.0%	18	20.0%	89	90.8%	9	9.2%	161	85.6%	27	14.4%
103	筋肉内注射のメカニズムをふまえて、筋肉内注射後の観察のポイントがわかる	87	95.6%	4	4.4%	89	90.8%	9	9.2%	176	93.1%	13	6.9%
104	モデル人形に筋肉内注射ができる	84	92.3%	7	7.7%	88	89.8%	10	10.2%	172	91.0%	17	9.0%
105	静脈内注射のメカニズムをふまえて、モデル人形に静脈内注射ができる	71	78.0%	20	22.0%	73	75.3%	24	24.7%	144	76.6%	44	23.4%
106	モデル人形に翼状針を使って、点滴静脈内注射ができる	62	68.1%	29	31.9%	72	74.2%	25	25.8%	134	71.3%	54	28.7%
107	薬理作用を踏まえて静脈内注射の危険性が予測できる	79	86.8%	12	13.2%	69	70.4%	29	29.6%	148	78.3%	41	21.7%
108	静脈内注射法の実施中の異常発生時の対応方法がわかる	68	76.4%	21	23.6%	68	69.4%	30	30.6%	136	72.7%	51	27.3%
109	輸液ポンプの基本的な操作方法がわかる	83	91.2%	8	8.8%	65	66.3%	33	33.7%	148	78.3%	41	21.7%

全体の同意率が70%未満の到達目標の項目の割合をゴシック体で示した。教育者と看護実践者の同意率の差が20%以上ある場合、同意率の低い方の割合をゴシック体で示した。

表IV-5 看護基礎教育卒業時の到達目標についての「適切性」への同意の有無(デルファイ第1回調査結果) 続き

No	到達目標	教育者 (N=91)				看護実践者 (N=98)				全体 (N=189)			
		同意する		同意しない		同意する		同意しない		同意する		同意しない	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
110	学内演習で輸液ポンプの設定操作が設定できる	69	75.8%	22	24.2%	64	65.3%	34	34.7%	133	70.4%	56	29.6%
111	抗生物質の薬理作用をふまえ、適切な投与方法がわかる	71	78.9%	19	21.1%	70	72.2%	27	27.8%	141	75.4%	46	24.6%
112	抗生物質を投与されている患者の副作用の観察ポイントがわかる	81	90.0%	9	10.0%	77	78.6%	21	21.4%	158	84.0%	30	16.0%
113	インシュリン製剤の種類に応じた適切な投与方法がわかる	78	86.7%	12	13.3%	71	72.4%	27	27.6%	149	79.3%	39	20.7%
114	インシュリン製剤を投与されている患者の観察ポイントがわかる	84	93.3%	6	6.7%	86	87.8%	12	12.2%	170	90.4%	18	9.6%
115	麻薬を投与されている患者の主作用・副作用の観察のポイントがわかる	81	90.0%	9	10.0%	79	81.4%	18	18.6%	160	85.6%	27	14.4%
116	薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む)方法がわかる	81	90.0%	9	10.0%	69	71.1%	28	28.9%	150	80.2%	37	19.8%
117	輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血前・中・後の観察のポイントがわかる	81	90.0%	9	10.0%	75	77.3%	22	22.7%	156	83.4%	31	16.6%
<9>	救命救急処置技術												
118	意識レベルの把握方法がわかる	85	94.4%	5	5.6%	81	83.5%	16	16.5%	166	88.8%	21	11.2%
119	看護師の指導の下で患者の意識状態を観察できる	80	88.9%	10	11.1%	89	90.8%	9	9.2%	169	89.9%	19	10.1%
120	急変時の気道確保の方法がわかる	82	92.1%	7	7.9%	79	80.6%	19	19.4%	161	86.1%	26	13.9%
121	気管内挿管の準備と介助の方法がわかる	59	67.0%	29	33.0%	65	66.3%	33	33.7%	124	66.7%	62	33.3%
122	モデル人形で人工呼吸法が正しく実施できる	79	88.8%	10	11.2%	79	80.6%	19	19.4%	158	84.5%	29	15.5%
123	モデル人形で閉鎖式心マッサージ法が正しく実施できる	80	89.9%	9	10.1%	81	82.7%	17	17.3%	161	86.1%	26	13.9%
124	除細動法の原理がわかる	81	91.0%	8	9.0%	75	77.3%	22	22.7%	156	83.9%	30	16.1%
125	止血法の原理がわかる	76	86.4%	12	13.6%	88	89.8%	10	10.2%	164	88.2%	22	11.8%
126	緊急時のチームメンバーへの応援要請の必要性が認識できる	79	88.8%	10	11.2%	82	83.7%	16	16.3%	161	86.1%	26	13.9%
<10>	症状・生体機能管理技術												
127	バイタルサインが正確に測定できる	89	97.8%	2	2.2%	96	98.0%	2	2.0%	185	97.9%	4	2.1%
128	正確に身体計測ができる	86	94.5%	5	5.5%	94	95.9%	4	4.1%	180	95.2%	9	4.8%
129	目的をもって、系統的な症状の観察ができる	74	81.3%	17	18.7%	75	76.5%	23	23.5%	149	78.8%	40	21.2%
130	患者の状態の変化に気づくことができる	82	90.1%	9	9.9%	71	72.4%	27	27.6%	153	81.0%	36	19.0%
131	バイタルサイン・身体測定データ・症状から患者の状態を解釈できる	77	85.6%	13	14.4%	73	75.3%	24	24.7%	150	80.2%	37	19.8%
132	目的に合わせて採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取り扱いができる	69	76.7%	21	23.3%	78	79.6%	20	20.4%	147	78.2%	41	21.8%
133	モデル人形または学生間で静脈血採血が実施できる	83	92.2%	7	7.8%	87	88.8%	11	11.2%	170	90.4%	18	9.6%
134	血糖値測定ができる	71	78.9%	19	21.1%	67	68.4%	31	31.6%	138	73.4%	50	26.6%
135	血液検査の目的を理解し、目的に合わせて血液検体の取り扱い方がわかる	72	80.0%	18	20.0%	67	69.1%	30	30.9%	139	74.3%	48	25.7%
136	正確な検査が行えるための患者の準備ができる	75	82.4%	16	17.6%	73	75.3%	24	24.7%	148	78.7%	40	21.3%
137	患者の緊張を和らげるよう配慮しながら検査の介助ができる	74	81.3%	17	18.7%	69	71.1%	28	28.9%	143	76.1%	45	23.9%
138	身体侵襲を伴う検査の目的・方法が生体に及ぼす影響がわかる	81	90.0%	9	10.0%	78	79.6%	20	20.4%	159	84.6%	29	15.4%
139	検査後の安静保持の援助ができる	61	67.8%	29	32.2%	70	71.4%	28	28.6%	131	69.7%	57	30.3%
140	検査前・中・後の観察ができる	57	63.3%	33	36.7%	65	66.3%	33	33.7%	122	64.9%	66	35.1%
<11>	感染予防の技術												
141	スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗いが実施できる	89	98.9%	1	1.1%	86	87.8%	12	12.2%	175	93.1%	13	6.9%
142	状況に応じて、必要な防護用具(手袋・ゴーグル・ガウン等)の装着ができる	73	82.0%	16	18.0%	70	72.2%	27	27.8%	143	76.9%	43	23.1%
143	状況に応じて、洗浄・消毒・滅菌の適切な方法が選択できる	64	71.1%	26	28.9%	51	52.0%	47	48.0%	115	61.2%	73	38.8%
144	感染性廃棄物の取り扱いが適切にできる	75	83.3%	15	16.7%	66	67.3%	32	32.7%	141	75.0%	47	25.0%
145	無菌操作が確実にできる	66	73.3%	24	26.7%	54	55.1%	44	44.9%	120	63.8%	68	36.2%

全体の同意率が70%未満の到達目標の項目の割合をゴジック体で示した。教育者と看護実践者の同意率の差が20%以上ある場合、同意率の低い方をゴジック体で示した。

表IV-5 看護基礎教育卒業時の到達目標についての「適切性」への同意の有無(デルファイ第1回調査結果) 続き

No	到達目標	教育者 (N=91)				看護実践者 (N=98)				全体 (N=189)			
		同意する		同意しない		同意する		同意しない		同意する		同意しない	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
146	針刺し事故防止の対策が実施できる	75	83.3%	15	16.7%	70	71.4%	28	28.6%	145	77.1%	43	22.9%
147	針刺し事故後の感染防止の方法がわかる	79	87.8%	11	12.2%	68	69.4%	30	30.6%	147	78.2%	41	21.8%
	<12>安全管理の技術												
148	患者の機能や行動特性に合わせて療養環境を安全に整えることができる	75	83.3%	15	16.7%	74	75.5%	24	24.5%	149	79.3%	39	20.7%
149	患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる	71	79.8%	18	20.2%	57	58.2%	41	41.8%	128	68.4%	59	31.6%
150	誤薬防止の手順にそった与薬の方法がわかる	86	95.6%	4	4.4%	87	88.8%	11	11.2%	173	92.0%	15	8.0%
151	患者を誤認しないための防止策を実施できる	81	90.0%	9	10.0%	78	80.4%	19	19.6%	159	85.0%	28	15.0%
152	人体へのリスクの大きい薬剤暴露の危険性がわかる	73	83.9%	14	16.1%	74	76.3%	23	23.7%	147	79.9%	37	20.1%
153	放射線暴露の防止のための行動がとれる	67	75.3%	22	24.7%	76	77.6%	22	22.4%	143	76.5%	44	23.5%
154	インシデント・アクシデントが発生した場合には速やかに報告できる	82	91.1%	8	8.9%	87	88.8%	11	11.2%	169	89.9%	19	10.1%
155	災害発生した場合には、指示に従って行動がとれる	72	80.9%	17	19.1%	80	81.6%	18	18.4%	152	81.3%	35	18.7%
	<13>安楽確保の技術												
156	体位の特徴がわかり、患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる	83	91.2%	8	8.8%	73	76.0%	23	24.0%	156	83.4%	31	16.6%
157	電法等身体安楽促進ケアが実施できる	80	87.9%	11	12.1%	77	80.2%	19	19.8%	157	84.0%	30	16.0%
158	患者の緊張緩和の重要性を認識し、精神的安寧を保つための工夫をすることができる	70	77.8%	20	22.2%	65	68.4%	30	31.6%	135	73.0%	50	27.0%

全体の同意率が70%未満の到達目標の項目の割合をゴジック体で示した。教育者と看護実践者の同意率の差が20%以上ある場合、同意率の低い方の割合をゴジック体で示した。

判断を含み、「指導できる」ことを到達目標にした項目の同意率が低かった。〈6〉呼吸・循環を整える技術においては、【62 酸素吸入療法が適切に実施できる】【63 酸素吸入療法を受けている患者の観察をし、効果の判定ができる】など、酸素吸入療法に関わり「できる」レベルに置いた到達目標の同意率が低かった。

その他に【38 廃用性症候群予防のための呼吸機能を高める援助ができる】【140 検査前、中、後の観察ができる】【145 無菌操作が確実にできる】【149 患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる】など、患者の身体機能の判断を含むものや診療に関わる援助技術で、「できる」レベルに置いた到達目標の同意率が低かった。

また、【30 基本的なスチーム造設部の管理、パウチ交換の方法がわかる】【78 低圧胸腔内持続吸引器の操作の基本がわかる】【121 気管内挿管の準備と介助の方法がわかる】については、「わかる」レベルの到達目標であったが、同意率は低かった。

(2)教育者と看護実践者の「適切性」についての同意率の差について

教育者と看護実践者を対比して同意率を見た場合、両者の同意率の差が10%以上あった到達目標は61項目であり、このうち教育者の同意率の方が低かったのは3項目のみで、残り58項目の到達目標は、看護実践者の同意率が低かった。両者の同意率の差が20%以上であった11項目の到達目標に着目すると、【3 臥床患者の状態に合わせたリネン交換ができる】【33 患者の機能に合わせてベッドから車椅子への移乗ができる】【149 患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる】など、〈患者の状態に合わせる〉ことを含んだ5項目の到達目標と、【30 基本的スチーム造設部の管理、

パウチ交換の方法がわかる】【89 創の状態に応じた創傷保護材の特徴がわかる】【109 輸液ポンプの基本的な操作方法がわかる】など、〈薬剤・診療材料・機器を用いる〉ことを含んだ4項目の到達目標において、教育者よりも看護実践者の同意率が特に低かった。一方、【24 モデル人形で摘便が実施できる】など、〈モデル人形を用いる〉ことを含む2項目の到達目標では、看護実践者よりも教育者の同意率が特に低かった。

(3)卒業時の到達目標について「適切性」に同意しない理由・代案

卒業時の到達目標案について「適切性」に同意しない理由・代案の回答のうち、全体の同意率が80%未満、及び教育者または看護実践者のいずれかの同意率が70%未満であった62項目の到達目標について、その回答例の記述内容を表に示す(表IV-6)。いずれの到達目標の項目においても、「看護師・教員の指導のもとで」を入れること、「できる」を「わかる」に変更すること、「卒業後の習得でよい」など、到達目標の表現を変更し、到達度を下げることが勧められる意見が多く挙げられた。また、実習で経験できる頻度が少ないことや、特殊技術であることから「80%以上の到達は困難である」との意見も多かった。その他、各到達目標の表現の曖昧さや幅広さを指摘する意見も挙げられた。

教育者と看護実践者の同意率に20%以上の差があった11項目の到達目標を見ると、先に述べた〈患者の状態に合わせる〉を含んだ5項目の到達目標においては、看護実践者から「看護師・教員の指導のもとで」を入れること、「状態に合わせた」技術の実践はレベルが高すぎる、「患者の機能に合わせては難しい」など、卒業時の到達目標としてはレベルが高いことの原因が多く挙げられていた。〈薬剤・診療材料・機器

表IV-6 卒業時の看護技術の到達目標について「適切性」に同意しない理由・代替案の回答例

全体の同意率が80%未満、およびどちらかが70%未満の到達目標のみを示した。

No	到達目標	教育者による理由・代替案	看護実践者による理由・代替案
3	臥床患者の状態に合わせたリネン交換ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「ひとりで実施できる」あるいは「2人で実施できる」に変更する 「臥床」は不要である 「臥床患者の状態に合わせた」の判断が難しい 「臥床患者」を「チューブやモニタ類を装着していない臥床患者」に変更する 「臥床患者」を「片麻痺患者(左右の指示をして)」に変更する 「臥床患者の状態」のレベルを特定する必要がある。「重症患者以外の臥床患者のリネン交換ができる」に変更する。 「急性状況にない」を加える 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「臥床」は不要である 「状態に合わせた」はレベルが高すぎる 「臥床患者の状態に合わせた」は不要である 「ライン類等がない場合」に限定する 「臥床患者の状態に」を「基本形と臥床患者のリネン交換ができる」に変更する 「医療機器等の装着患者を除く」を入れる 臨地実習の場合も、臥床患者の時には看護師とともにしているの、卒業時の到達目標としては達成していないと考える
8	患者の食生活上の改善点を指導できる	<ul style="list-style-type: none"> 「指導できる」を「改善点が見つかる」に変更する 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「指導できる」は難しすぎる 80%は到達することができない 10に含まれる 指導技術は実施に含まれるか、技術とは切り離して考えたほうが良い 	<ul style="list-style-type: none"> 「指導できる」を「改善点が見つかる」に変更する 「指導できる」を「指導の必要性を理解している」に変更する 「指導できる」を「アセスメントできる」に変更する 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 指導はできなくてもよい パンフレットを用いてなら可能である 項目10との違いがわかりづらいため、どちらかにする方がよい 「食生活」という表現が曖昧である 具体的内容を明らかにする方がよい
9	患者の疾患に応じた食事内容を指導できる	<ul style="list-style-type: none"> 「指導できる」を「わかる」に変更する 「指導できる」を「患者の疾患に応じた食事指導内容を列挙できる」に変更する 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 疾患が複数など複雑な場合は困難である 疾患の種類に応じた内容は到達可能だが、レベルに応じたまでは困難である 一部の疾患に限られた学生ができるのみである 糖尿病・慢性腎不全など限定すれば可能である 指導技術は実施に含まれるか、技術とは切り離して考えたほうがよい 	<ul style="list-style-type: none"> 「指導できる」を「わかる」に変更する 「指導できる」を「改善点が見つかる」、「指導内容がわかる」に変更する 指導までは無理である 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 疾患により難易度が異なり、必ずしも到達できるかわからない アセスメントまでできればよい パンフレットを用いてなら可能である 指導すべき内容が多い 「疾患に応じた」を具体的指示の表現の方がわかりやすい
10	患者の心情や社会生活に配慮しながら食生活の改善を指導できる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「改善を指導できる」を「改善点が見つかる」に変更する 「患者の心情や社会生活に配慮しながら」が曖昧なので、内容を明示した方がよい 「生活」が入ると難易度がかなり高い 実習で経験のある者のみ、実施できる。80%には至らない 9に含まれる 8と重複していると考えるので、8を含む 項目の内容が大きすぎる 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「改善を指導できる」を「改善点が見つかる」に変更する 指導までは無理である 「心情や社会背景の配慮」は困難である 心情の評価が難しい パンフレットを用いてなら可能である 上記8、9でよい。10については卒業後、プライマリナースとしてケアできる目標としてよい 8との違いが不明確である
11	モデル人形での経鼻胃チューブの挿入・確認ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「挿入」は不要である 「挿入・確認ができる」を「挿入・確認方法がわかる」に変更する 講義のみ実施している モデル人形で確認が正しくできるか不明である 知識としての学習はしているが モデル人形がない 	<ul style="list-style-type: none"> 経鼻胃チューブの挿入は医師が行うため確認ができればよい 経鼻胃チューブの挿入は医師が行うため、「挿入の介助ができる」という表現がよい 見学のみでよい 知識はあるが確認ができない状況である モデルがあれば可である 学内実習がされていない

表IV-6 卒業時の看護技術の到達目標について「適切性」に同意しない理由・代替案の回答例 続き

全体の同意率が80%未満、およびどちらかが70%未満の到達目標のみを示した。

No	到達目標	教育者による理由・代替案	看護実践者による理由・代替案
13	看護師の指導下で患者に対して、経鼻胃チューブからの流動食の注入ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「注入ができる」を「注入方法がわかる」に変更する 「管理がわかる」に変更する 「注入介助ができる」に変更する 注入操作のみならず事前の確認操作も含む 80%の学生に臨床で機会を作れない 見学なら可である 	<ul style="list-style-type: none"> 「注入ができる」を「注入方法がわかる」に変更する 「モデル人形」でを入れる 管理というとすべて含まれるため実際に患者に実施するのは、安全面から考え難しい 卒業後の習得でよい 「適切なチューブの位置の確認ができる」に変更する 実施していない
14	患者の心情に配慮しながら、経管栄養中の管理ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「できる」を「わかる」に変更する 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「心情に配慮しながら」は曖昧な表現なので不要である 心情に配慮しながら管理はつながらないので「経管栄養中の管理ができる」に変更する 「管理」を「配慮」に変更する 臨床の場面で対象となる患者がいない 「心情に配慮」の点について、現状の実習内容では困難である 	<ul style="list-style-type: none"> 「できる」を「わかる」に変更する 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 卒業後の習得でよい 経管栄養の対象が様々で実習では実施できないため削除する 「心情への配慮」と「管理」は別ではないか 心情の評価は難しい 心情への配慮はできると思うが、管理は一人では難しい 注入することに目がいってしまい、精神面までの配慮は難しい 実習で経験されていることが少ない
21	失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「できる」を「わかる」に変更する 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 総合して考えることができない。 80%の学生に臨床で機会を作れない 保清程度ならできるが 積極的な皮膚保護のケアまではできないと思われる 対象の個性のアセスメントと、保護材の種類と方法の知識の統合が困難である。したがって心情についても表面的になると推測する 	<ul style="list-style-type: none"> 「できる」を「わかる」に変更する 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 卒業後の習得でよい 対象に応じたケアの選択ができない 「皮膚粘膜の保護ができる」を「皮膚粘膜の観察ができる」に変更する 「皮膚粘膜の保護ができる」を「皮膚粘膜のアセスメントができる」に変更する 皮膚粘膜の保護は軟膏等も利用するため、全ての範囲は難しい 皮膚粘膜の異常を発見することはできると思うが、保護の手段をどれだけできていけばいいのか、この目標からは把握できない 80%の学生に臨床で機会を作れない
22	患者の心情に配慮しながら失禁をしている患者のケアができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する ケースが少ないため「患者の状況に応じたケアを考慮することができる」に変更する 「心情に配慮」がわかりにくい 「患者の心情に配慮しながら」を「自尊心を傷つけないように」変更する 「失禁をしている患者のケア」は範囲が広すぎる 80%の学生に臨床で機会を作れない 対象の個性のアセスメントと、保護材の種類と方法の知識の統合が困難である。したがって心情についても表面的になると推測する 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 「患者の心情に配慮しながら」を「患者のプライバシーの保護を配慮しながら」に変更する 心情の評価は難しい 患者のケアという表現は広すぎるので、表現方法を変えると可能である 「失禁をしている患者の心情に配慮できる」に変更する 学生が失禁の評価ができない 80%の学生に臨床で機会を作れない
24	モデル人形で排便が実施できる	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の習得でよい 「できる」を「わかる」に変更する モデル人形では経験困難 演習用のモデル人形がない モデル人形にて実習することは、実際の生体との違いが大きいため不安である 講義のみ実施しており、実習等で見学はしても実施する機会もない 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の習得でよい 「できる」を「留意事項・手順・観察項目がわかる」に変更する 演習用のモデル人形がない 1人での実施は難しい
25	モデル人形に膀胱留置カテーテルの挿入ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「安全な膀胱留置カテーテルの挿入方法がわかる」に変更する 「膀胱留置カテーテルの挿入」は「導尿」でよいと考える 「膀胱留置カテーテルの挿入」は不要である 男性の場合医師が行う為、「モデル人形」を「モデル人形(女性)」に変更する 「看護技術項目」の欄の(管理)は27の項目に移す 講義のみ実施している 	<ul style="list-style-type: none"> 学生の段階では不要である 1人での実施は難しい 「挿入および抜去ができる」に変更する 男性・女性を加える 男子のカテーテル留置については医師挿入が原則である モデルがあれば可である モデル人形がないのであてはまらない

表IV-6 卒業時の看護技術の到達目標について「適切性」に同意しない理由・代替案の回答例 続き

全体の同意率が80%未満、およびどちらかが70%未満の到達目標のみを示した。

No	到達目標	教育者による理由・代替案	看護実践者による理由・代替案
27	膀胱留置カテーテルを挿入している患者の(セットの)管理できる。	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「管理できる」を「管理の留意点がわかる」 「膀胱留置カテーテル挿入中の患者の観察ができる」に変更する 「患者の(セットの)管理」の意味がわかりにくい 導尿技術と関連づけて、共通、相違の学習レベルでよい。カテーテル挿入のメカニズムがわかるレベルでよい 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 「できる」を「留意事項・手順・観察項目がわかる」に変更する 「患者の(セットの)管理」の意味がわかりにくい 管理はできない 1人での実施は難しい 物理的な環境の管理なのか、清潔面も含めた患者の管理なのか到達目標の意図がわかりにくい 学生の段階では不要である
30	基本的なストーマ造設部の管理、パウチ交換の方法がわかる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「わかる」を「できる」に変更する 特殊な技術であり80%は到達することが困難である 講義のみ実施している 臨時実習で受け持つことが少なく、実技はほとんどできない 臨時実習で受け持つことが少なく、実技はほとんどできない 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の習得でよい 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる パウチの交換は見学の経験でよい ストーマ管理は難しすぎる 実習での経験は少ないと思われ、80%以上の到達は困難である ストーマ造設患者と出会う機会が少ない
31	ストーマを造設した患者の生活上の配慮点がわかる	<ul style="list-style-type: none"> 特殊な技術であり80%の到達は困難である 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる ストーマ造設患者の症例は少なく、知識としてのレベルでも80%以上は難しい 講義のみ実施している 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の習得でよい 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 症例がストーマ造設患者の症例は少なく、知識としてのレベルでも80%以上は難しい 技術的な理解が困難である 「生活上の配慮点」を「生活上の注意(留意)点」に変更する
33	患者の機能に合わせてベッドから車椅子への移乗ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「対象の状況に応じた移乗・移送ができる」に変更する 「自立体位変換のできる」を入れる 「片麻痺がある患者についてベッドから車椅子への移乗ができる」に変更する 「患者の運動機能に合わせて」に変更する 「患者の機能」についてアセスメントすることは難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 「麻痺のない患者」に限定する 「患者の機能に合わせて」は難しい 「患者の機能に合わせて」は不要である 機能をどのレベルの機能とするのかを明確にするほうがよい 経験が少ないため、患者の機能に合わせるという応用は卒業時にはできない
37	廃用性症候群予防のための自動・他動運動ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 専門性が高い技術である 「患者の状態に応じて」を入れる 「廃用性症候群の予防法を考え実施できる」に変更する 80%の学生に臨床で機会を作れない 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 「できる」を「必要性がわかる」に変更する 具体的な援助方法を想像しにくい 「自動運動」ができるという表現はおかしい。38と同じように、「筋・骨格系機能を高める援助ができる」とする ST、PT等専門領域の指導のもとに行うので除外する アセスメントはできていても具体的な実施はできない
38	廃用性症候群予防のための呼吸機能を高める援助ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 呼吸機能を高める援助が具体的にできずわかりにくい 専門性が高い技術である どこまで求めているのかわからない 講義のみ実施している 「呼吸機能の廃用性症候群を予防するための援助ができる」に変更する 受け持ち患者の状態により、異なるため80%以上の学生が到達できない。学内演習では行っているが、実際の患者にできているかは課題が残る 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 「援助ができる」を「方法・原理の理解ができる」に変更する 呼吸機能を高める援助が具体的にできずわかりにくい 呼吸機能の援助だけ特別というのが不明である 必要性は理解できるが実施は難しい アセスメントはできていても具体的な実施はできない 理学療法を必要とする患者への援助は実習中において必ずしも80%以上は体験していない。知識としてある程度備わっていても、技術を体験するまでにはいたっていない
44	看護師の監視下で患者のベッドからストレッチャーへの移送ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「患者のベッドからストレッチャーへの」を「患者をストレッチャーで移送できる」に変更する 「患者のベッドからストレッチャーへの」を「患者をストレッチャーでの移送ができる」に変更する 43の項目との違いが不明である 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 「患者のベッドからストレッチャーへの」を「患者をストレッチャーで移送できる」に変更する 「患者のベッドからストレッチャーへの」を「患者をストレッチャーでの移送ができる」に変更する 43の項目との違いが不明である

表IV-6 卒業時の看護技術の到達目標について「適切性」に同意しない理由・代替案の回答例 続き

全体の同意率が80%未満、およびどちらかが70%未満の到達目標のみを示した。

No	到達目標	教育者による理由・代替案	看護実践者による理由・代替案
47	患者の病態・機能および習慣に配慮しながら入浴の介助ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「必要性がわかる」に変更する 「病態・機能」を「病状や身体機能」に変更する 「患者の病態・機能及び習慣に配慮」に具体的条件をつけたほうがよい 「入浴」を「入浴またはシャワー浴」に変更する 80%の学生に対し、機会を作れない 「患者の病態・機能及び習慣」に「片麻痺患者」など具体的条件をつけたほうがよい 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 病態・機能のアセスメントが難しい 習慣への配慮は難しい 学生時代には種々の疾患を受け持つことがないため、患者の習慣に配慮しながらの入浴介助は到達できない 疾患等には注意がいくが、習慣にまでは配慮が難しい
56	意識障害のない患者の口腔ケアができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 説明のみ実施している 「意識のない患者」に限定する必要を感じない 臨地での実施は受け入れ状況から困難である 80%の学生に対し、機会を作れない 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「口腔ケアができる」を「口腔ケアの方法がわかる」に変更する 「口腔ケアができる」を「口腔ケアの必要性がわかる」に変更する 「患者の状態にあわせて」といった内容が必要と思う。「臥床患者を含む」といった表現を入れる 「意識障害のない患者」は無理である 実践していない
62	酸素吸入療法が適切に実施できる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「酸素吸入療法の必要性がわかる」に変更する 「カニューレ挿着による酸素吸入療法」に変更する 「酸素療法の種類・方法を理解し、適切に実施できる」に変更する 「ナザール、フェイス TENTによる酸素吸入療法が適切に実施できる」に変更する 見学レベルである 64との区別がわかりにくい 実習で80%の学生が受け持っていない 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「適切に実施できる」を「わかる」に変更する 「適切に」は不要である 酸素吸入療法(カニューレ、マスク)が適切に実施できる段階、他は知識のみでよい 実施レベルは成人老年期と特定した方がよい 「適切に」という表現が曖昧である
63	酸素吸入療法を受けている患者の観察をし、効果の判定ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「効果の判定」までは無理である 「観察ができる」に変更する 「観察」を「身体アセスメント」に変更する 63～64は62に集約できる 80%の学生に臨床で機会を作れない 「SaO2測定 血液データ確認程度なら」可能である 「学内演習で」を入れる 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「効果の判定」は難しい 「観察ができる」に変更する 「効果の判定ができる」を「効果の判定方法がわかる」に変更する 「効果の判定ができる」を「効果のアセスメントができる」に変更する 「データから」をいれる 「効果の判定」は不要である
64	患者の苦痛に配慮し、酸素吸入療法が効果的に行えるように援助できる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「わかる」レベルである 「管理方法がわかる」に変更する 「カニューレ法・マスク法の注意点がわかる」に変更する 少しレベルが高い 「効果的に」は不要である 63～64は62に集約できる 80%の学生に臨床で機会を作れない 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「わかる」レベルである 苦痛に配慮ができる段階であり、効果的には経験が必要である 「効果的に」は曖昧である 62があれば不要である 「患者の苦痛に配慮し」は何を指しているのかわかりにくい 「酸素療法が効果的に行える」の意味がわかりにくい 「苦痛に配慮し」は削除する。様々な苦痛の配慮は難しい
65	気道内加湿法の必要性がわかり、気道内加湿法を適切に実施する	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「実施する」を「実施できる」に変更する 「気道加湿法の必要性がわかり」は前提条件である 必要性は分かっても加湿する方法が実習病院によって異なっているため難しい どうい状況での気道内加湿かわからない 80%の学生に臨床で機会を作れない 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「必要性がわかる」に変更する 「適切に」は不要である 表現が抽象的である。具体的に吸入療法や含嗽など援助内容を入れて表現する方がよい

表IV-6 卒業時の看護技術の到達目標について「適切性」に同意しない理由・代替案の回答例 続き

全体の同意率が80%未満、およびどちらかが70%未満の到達目標のみを示した。

No	到達目標	教育者による理由・代替案	看護実践者による理由・代替案
71	体位ドレナージのメカニズムがわかり、モデル人形あるいは学生間で体位ドレナージ法を実施できる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義のみ実施している ・ 講義で実施していない ・ 2つの目標が入っているので、「体位ドレナージのメカニズムがわかる」と、「モデル人形あるいは学生間で体位ドレナージ法を実施できる」分けた方がよい ・ 「体位ドレナージのメカニズムがわかる」まででよい。「人形あるいは学生間で実施」までは時間的に無理である ・ スクイージングは実施しているが、体位ドレナージ行っていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる ・ 実施していない ・ 見学の実施である ・ 知識レベルであり、実施は困難である ・ 「モデル人形」を削除する ・ モデルがあれば可である
74	人工呼吸器のメカニズムがわかる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業後の習得でよい ・ 専門性が高い ・ メカニズムについては理解するまでは詳細には伝えていない ・ 講義のみ実施している ・ 「人工呼吸器のメカニズムを理解し、観察の視点がわかる」に変更する ・ 不要である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業後の習得でよい ・ 高度な知識を必要とする ・ 「呼吸のメカニズムがわかる」のレベルでよい ・ 実習経験がない。知識不足
75	人工呼吸器装着中の患者の観察点がわかる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業後の習得でよい ・ 専門性が高い ・ 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる ・ 講義のみ実施している ・ 不要である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業後の習得でよい ・ 高度な知識を必要とする ・ 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる ・ 学生にここまで求めなくてもよい ・ 80%の学生に臨床で機会を作れない ・ 卒業時の到達目標としては高度で専門的な知識・技術が要求されるので除外が望ましい
78	低圧胸腔内持続吸引器の操作の基本がわかる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる ・ 操作は不要である ・ 操作は実施をさせていない ・ 講義のみ実施している ・ 不要である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる ・ 卒業後の習得でよい ・ 低圧持続吸引について知識としてしておく程度でよい ・ 操作までは求めなくともよい ・ 用いる器材はどんどん変わっていくと思うので操作までは不要である ・ 80%の学生に臨床で機会を作れない ・ 「操作の基本」の範囲がわかりにくい ・ 不要である
79	循環機能のアセスメントができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる ・ 「アセスメントができる」を「循環機能のアセスメントの視点がわかる」に変更する ・ 「呼吸・循環・体温のつながりで生命を維持する過程の基礎的なアセスメントができる」に変更する ・ 「循環機能のアセスメント」をもう少し具体的表現にしたほうがよい ・ 患者によって循環機能が異なるので、どのレベルなのか不明である ・ 脈拍、呼吸、心拍までなら可能であるが、心電図は無理である ・ バイタルサイン測定や心電図程度ならできる ・ 目標として漠然としており、評価しづらい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる ・ 「アセスメントができる」を「循環機能のアセスメントの視点がわかる」に変更する ・ 「アセスメントできる」は不要である ・ 「呼吸・循環機能の」に変更する ・ 範囲が広すぎて判断できない ・ 知識・アセスメント能力不足である ・ 項目の内容がわかりにくい ・ 対象を限定する必要がある
80	末梢循環を促進する援助ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる ・ 「末梢循環を促進する援助方法がわかる」に変更する ・ 範囲が広く、判断が困難である ・ 質問が具体的でなくわかりにくい ・ 何を実施して、どう評価するのか不明瞭である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる ・ 「援助ができる」を「援助がわかる」に変更する。「アセスメントできる」は不要である ・ 「援助ができる」を「援助を考えることができる」に変更する ・ 実践内容がわかりにくい ・ 「抹消循環不良の患者に」に限定する

表IV-6 卒業時の看護技術の到達目標について「適切性」に同意しない理由・代替案の回答例 続き

全体の同意率が80%未満、およびどちらかが70%未満の到達目標のみを示した。

No	到達目標	教育者による理由・代替案	看護実践者による理由・代替案
85	褥創予防のためのケアが実施できる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「ケアが実施できる」を「援助の方法がわかる」に変更する ケアを具体的に表現したほうがよい(体圧、栄養、清潔)など 患者の重症度のレベルなど示した方がよい 80%以上が到達は困難である 褥創だけを特化させる必要があるか疑問である 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「ケアが実施できる」を「援助の方法がわかる」に変更する 褥創の程度により処置の内容が違うため判断が難しい 立案・実施は困難である 「アセスメントシートを使えば」を入れる
89	創の状態に応じた創傷保護材の特徴がわかる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 卒業後の習得でよい 「創傷治療過程・ドレッシング剤の種類を理解した上で実施できる」に変更する 創傷保護材の種類が多すぎる 高度すぎる 手術創、熱傷、褥創などにより大きく異なり、難しい。代表的な創をあげる 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 卒業後の習得でよい 創の状態をアセスメントする知識不足である 創傷保護材の多くの特徴がわかるのは困難である 病院ごとに使用薬剤が異なる、応用は難しい 学生はそこまで詳しく学んでいない 毎年に変化するため、「基本的知識がわかる」に変更する
96	モデル人形に直腸内与薬が実施できる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「直腸内与薬方法がわかる」に変更する 「実施できる」を「適応・目的を理解し、実施・観察ができる」に変更する 「投与後の観察ができる」に変更する モデル人形がない 講義のみである 実施していない 与薬行為は資格取得後が望ましい 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「留意点・手順がわかる」に変更する 「直腸内与薬が実施できる」とするなら、「経口・外用薬と薬も実施できる」レベルとする モデル人形がない モデルがあれば可である 実施していない 男女形態差と安全な挿入法はぜひやってきてほしい
105	静脈内注射のメカニズムをふまえ、モデル人形に静脈内注射ができる	<ul style="list-style-type: none"> 学内実習で取り上げていない モデル人形で点滴静脈内注射を実施しているので静脈内注射実施はしていない 教員によるデモンストレーションのみである 卒業後の習得でよい 「メカニズムがわかる」レベルでよい 「できる」のレベルがわからない 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「メカニズムをふまえ、方法がわかる」に変更する 「静脈内注射の留意点・手順がわかる」に変更する 実施していない 卒業後の習得でよい 採血も確実に実施できない現状を踏まえると現実的ではない
106	モデル人形に翼状針を使って、点滴静脈内注射ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 卒業後の習得でよい 105の方法まででよい 翼状針を用いての実習はしていない 80%以上が到達は困難である サーフロー針を使って見学のみ実施している 講義のみ実施している 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 卒業後の習得でよい 翼状針は実施まで学んでいない 「点滴静脈注射の留意点・手順がわかる」に変更する 翼状針だけでなくチューブ針も実施してほしい
107	薬理作用を踏まえて静脈内注射の危険性が予測できる	<ul style="list-style-type: none"> 「予測できる」を「わかる」に変更する 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 薬理作用にもいろいろあり細かいところまでは難しい 何の注射か特定しないと答えにくい 80%の到達は困難である 	<ul style="list-style-type: none"> 「予測できる」を「わかる」に変更する 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 薬理作用まで理解することはできない 危険性の予測まではできるかは不明である 採血も確実に実施できない現状を踏まえると現実的ではない 薬の知識不足である
108	静脈内注射法の実施中の異常発生時の対応方法がわかる	<ul style="list-style-type: none"> 演習を行っていない 固定方法は教えるが翼状針は実習させていない 翼状針を用いての実習はしていない メカニズムがわかるレベルでよい 80%以上が到達は困難 105の方法まででよい 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「点滴静脈注射の留意点・手順がわかる」に変更する 卒業後の習得でよい 翼状針は実施まで学んでいない 翼状針だけでなくチューブ針も実施してほしい それぞれの施設内の基準の差が大きい
109	輸液ポンプの基本的な操作方法がわかる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 卒業後の習得でよい 「操作方法がわかる」を「取り扱い方法を理解し、観察(一部管理を含む)できる」に変更する 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 卒業後の習得でよい 「輸液ポンプの用途がわかる」に変更する 機種が多いため基本のみでよい 機種の統一が必要である 80%の学生に臨床で機会を作れない

表IV-6 卒業時の看護技術の到達目標について「適切性」に同意しない理由・代替案の回答例 続き

全体の同意率が80%未満、およびどちらかが70%未満の到達目標のみを示した。

No	到達目標	教育者による理由・代替案	看護実践者による理由・代替案
110	学内演習で輸液ポンプの設定操作が設定できる	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の習得でよい 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「取り扱い方法を理解し、観察(一部管理を含む)できる」に変更する 109のみでよい 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の習得でよい 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「輸液ポンプの用途がわかる」に変更する 設定操作までは不要である。109までで十分である。 シリンジポンプも加えてほしい 「設定操作が設定」を「設定操作が」に変更する
111	抗生物質の薬理作用をふまえ、適切な投与方法がわかる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「適切な」の範囲がわかりにくい 「適切な投与方法」を「副作用の観察ができる」に変更する 講義で十分な時間をとれていない。また、実習での経験が80%の学生にない。実習での学習も十分とは言え、投与指示は医師が行う 何ができれば達成とするのかわかりにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「適切な」という表現はわかりにくい 「適切な」は不要である 「投与」を「与薬」に変更する アレルギーに関する知識が不足している。また抗生剤と疾患との関連が困難である
113	インシュリン製剤の種類に応じた適切な投与方法がわかる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「適切な」は不要である 「種類に応じた」を「基本的な」に変更する 「学内演習でインシュリン製剤の皮下注射ができる」に変更する インシュリンについて講義内で取り上げても 詳しい投与方法まではやっていない。実習でも見学の機会が時々ある程度である 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる レベルが高すぎる 「製剤の種類に応じた適切な投与方法」が何を指しているのかわかりづらい「種類」「投与方法」を分けた方がよい 「投与」を「与薬」に変更する 「適切な」という表現は不要である インシュリン製剤の範囲や種類がわかりにくい 多種類あり難しい 作用の学習はするが投与方法については難しい
116	薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む)方法がわかる	<ul style="list-style-type: none"> 80%以上が到達するのは困難である 血液製剤の管理は別にした方がよいのではないか 実施することができない 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 卒業後の習得でよい 「わかる」まではいかない。特別な管理が必要だと知るレベルである。 知識としては必要である 「管理」を「保管方法がわかる」に変更する 薬に関する知識不足である 「毒薬・劇薬」、「麻薬」、「血液製剤」それぞれに分ける
121	気管内挿管の準備と介助の方法がわかる	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の習得でよい 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 介助方法までは不要である 「気管内挿管の準備がわかる」に変更する 80%以上の到達は困難である 講義のみの実施している 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の習得でよい 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「学内演習で」を入れる 準備物はよいが、介助方法の理解は不足している 学生ではBLSの理解レベルでよい 「BLSがわかる」と大項目として設定した方がよい
129	目的をもって、系統的な症状の観察ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる フィジカルアセスメントは部分的にはできるが 完全な習得には至っていない 「患者の病態に応じた病状の観察ができる」に変更する 「系統的な症状の観察がわかる」に変更する 「系統的」を削除する 表現が曖昧で観察の範囲がわからない 質問項目では基礎教育で必要なレベルがわからない 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「観察ができる」を「観察のポイントがわかる」に変更する 「アセスメントシートに沿って」を入れる 「系統的に一般的な症状の観察ができる」に変更する 「バイタルサインを行い、指導のもと系統的に結びつけることができる」に変更する 目的・系統的ということは高度である 「系統的」は難しい 病態と関連づけたフィジカルアセスメントができない
131	バイタルサイン・身体測定データ・症状から患者の状態を解釈できる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「解釈できる」を「アセスメントできる」に変更する 「解釈できる」を「解釈・判断できる」に変更する 「対象に応じた系統的な観察ができる」に変更する 検査データも入れた方がよい 具体的にでない 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「解釈できる」を「わかる」に変更する 「解釈」を「アセスメント」に変更する 「解釈できる」は高度すぎる 「バイタルサインの変動がわかる」に変更する 総合的に判断することは難しい

表IV-6 卒業時の看護技術の到達目標について「適切性」に同意しない理由・代替案の回答例 続き

全体の同意率が80%未満、およびどちらかが70%未満の到達目標のみを示した。

No	到達目標	教育者による理由・代替案	看護実践者による理由・代替案
132	目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取り扱いができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 「採尿の方法がわかる」と「取り扱い方がわかる」の2つに分けた方がよい 以前は演習でやっていたが現在はとりあげていない 目的に合わせて行うことは80%の学生は経験していない 80%の学生に臨床で機会を作れない 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 検査に関する知識が乏しい 滅菌、小児等は難しい 一般検尿はできるが、滅菌採尿は不可である 実施されていない
134	血糖値測定ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 見学レベルまでならば可能である 80%以上が到達は困難である 講義のみの実施している。実習で実施させていない 学内、臨地とも実施していない。見学のみ実施している 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 卒業後の習得でよい 「正確に」を入れる 「安全に」を入れる 80%の学生に臨床で機会を作れない
135	血液検査の目的を理解し、目的に合わせた血液検体の取り扱い方がわかる	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の習得でよい 目的に応じて取り扱い方が異なることはわかるが 具体的な取り扱いまで習得できていない 実習での機会が少ない 「目的がわかる」と「取り扱い方がわかる」の2つに分けた方がよい 深夜で終了していることが多く、あまり意識づけられない 実習時間中は検体採取の機会少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の習得でよい 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 種類が多く、「目的に合わせた」は難しい 目的の理解は必要だが、取り扱いは難しいと思う 攪拌・冷却・即時に提出・空腹時、安静時等の条件が必要な者を除く 取り扱い範囲を限定する方がよい 80%の学生に臨床で機会を作れない
136	正確な検査が行えるための患者の準備ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 「心電図モニターの目的・手順・看護がわかる。」「パルスオキシメーターの方法を理解し実施できる」に変更する 検査食への理解や対象に応じた説明ができるを入れて欲しい 講義のみ実施している 重症患者は不可である 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 看護師ができる検査(パルスオキシメーター)と介助にあたる検査と分ける。 検査の範囲を明確にしたほうがよい 「マニュアルに沿って」を入れる 80%の学生に臨床で機会を作れない
137	患者の緊張を和らげるよう配慮しながら検査の介助ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 80%以上の学生は到達困難である 検査項目すべてを経験し、現状の実習状況から「介助ができる」レベルまでは困難と考える 講義のみ実施している 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 検査実施に集中し精神的援助までできない 検査の範囲を明確にしたほうがよい 実際には実習で行っていない
139	検査後の安静保持の援助ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 「援助ができる」を「必要性がわかる」に変更する 80%以上の到達は困難である 80%の学生に臨床で機会を作れない 「安静保持」は不要である 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 「援助ができる」を「必要性がわかる」に変更する 検査の範囲を明確にしたほうがよい 体験できる機会が少ない 「安静保持」を「生活」に変更する 目標が漠然としている
140	検査前、中、後の観察ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「観察ポイントがわかる」「観察内容がわかる」に変更する 知識として持つてはいても、実践は難しい 80%の学生に機会をつくるのは不可能である 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「観察項目がわかる」「観察ポイントがわかる」に変更する 観察項目の全てを理解できることは難しい 担当患者のみとの関わりでは難しい 疾患と統合した観察ができるための知識不足である
142	状況に応じて、必要な防護用具(手袋・ゴーグル・ガウン等)の装着ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 80%の学生に臨床で機会を作れない 「必要性がわかる」に変更する 「学内演習にて」を入れる 「スタンダード・プリコーションの概念を理解し行動できる」に変更する 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「わかる」レベルである 「装着・着脱ができる」に変更する 80%の学生に臨床で機会を作れない 防護用具の装着の必要性は理解できていても、できるというレベルは不可能である 状況を設定した設問にしてほしい

表IV-6 卒業時の看護技術の到達目標について「適切性」に同意しない理由・代替案の回答例 続き

全体の同意率が80%未満、およびどちらかが70%未満の到達目標のみを示した。

No	到達目標	教育者による理由・代替案	看護実践者による理由・代替案
143	状況に応じて、洗浄・消毒・滅菌の適切な方法が選択できる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「選択できる」を「わかる」に変更する 状況に応じてという点が困難である 「適切」という表現がわかりにくい どの状況、場面でのことかわかりにくい 80%以上が到達は困難である ガイドラインにそって行う場合が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 卒業後の習得でよい 「選択できる」を「わかる」に変更する 「選択・実施できる」に変更する 適切な方法は選択が難しい 基本的な知識はあるが「状況に応じて」は難しい 全て外注し、一次洗浄もしない方向となってきている 内容が高度すぎる。「洗浄・消毒・滅菌の意味の違いが理解できる」に変更する。 80%の学生に臨床で機会を作れない
144	感染性廃棄物の取り扱いが適切にできる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 「適切に」不要。(これが当然含まれている) 「実習施設の手順に沿って」を入れる モデル人形や演習で行っているが実際現場で80%は困難である 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 施設のルールは除く 臨床の場での体験が少ない
145	無菌操作が確実にできる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 80%以上が到達は困難である 「確実に」は不要である どこまでを求めるか、もう少し到達目標を明確にする必要があると考える 「原理原則を理解し、正しい無菌操作が実施できる」に変更する 80%の学生に臨床で機会を作れない 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 「確実に」という表現はなしでよい 無菌操作の内容を具体的にするとわかりやすい 「滅菌物の取り扱いが確実にできる」に変更する 実践でなければ習得が難しい 80%の学生に臨床で機会を作れない
146	針刺し事故防止の対策が実施できる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「実施できる」を「わかる」に変更する もう少し到達目標を明確にする必要がある 必要だが、実習中に針を取り扱う機会がほとんどない 実習では見学レベルになっている 実習で実践させていない 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「実施できる」を「わかる」に変更する 卒業後の習得でよい 内容が漠然としている 「マニュアルどおりに」を入れる 必要と考えるが、針類は学生は実施していない
147	針刺し事故後の感染防止の方法がわかる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「感染防止の方法」を「正しい対処方法」に変更する 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 卒業後の習得でよい 「感染防止の方法」を「対応」「対応策」に変更する 「事故後にとる行動(対処)がわかる」に変更する 「事故後の対応が相談できる」に変更する 実践の知識不足である
148	患者の機能や行動特性に合わせて療養環境を安全に整えることができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「患者の機能」という表現が曖昧である 特殊なケースではできない 学生の立場でどこまで、できるとするかわかりにくい 一般的なレベルである 「患者の機能や行動特性に合わせて」は困難である 「患者の機能にあわせて」という意味がわからない 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「療養環境がわかる」に変更する 「患者の機能や行動特性に合わせて」という柔軟性は難 「患者の機能」を「患者の身体機能」に変更する 「療養環境の安全を考え、整えることができる」に変更する アセスメントできるようにしてほしいので、その内容もどこかに入れてほしい
149	患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「方法がわかる」に変更する 「機能や行動特性に合わせて」の意味がわからない 考えることができるレベルである 患者によっては難しい 一般的なレベルである 患者の病像が複雑な場合は困難である 	<ul style="list-style-type: none"> 「看護師・教員の指導のもとで」を入れる 「できる」を「わかる」に変更する 「患者の機能や行動特性に合わせて」という柔軟性は難しい 「アセスメントができる」に変更する 「行動特性にあわせて」はできない。状況設定してほし 理想はできるとよいが、実際は困難である。基礎知識をしっかりとしてほしい アセスメント能力や実践能力不足である

表IV-6 卒業時の看護技術の到達目標について「適切性」に同意しない理由・代替案の回答例 続き

全体の同意率が80%未満、およびどちらかが70%未満の到達目標のみを示した。

No	到達目標	教育者による理由・代替案	看護実践者による理由・代替案
153	放射線暴露の防止のための行動がとれる	<ul style="list-style-type: none"> ・「看護師・教員の指導のもとで」を入れる ・「とれる」を「わかる」に変更する ・「行動をとることの必要性がわかる」に変更する ・実習で体験の機会が少ないので行動がとれると言い切れない ・知識はあっても、行動レベルは不明である ・患者に対しては難しい。学生自身と限定してはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・「看護師・教員の指導のもとで」を入れる ・「とれる」を「わかる」に変更する ・卒業後の習得でよい ・「放射線の危険性がわかる」に変更する ・知識が乏しい
158	患者の緊張緩和の重要性を認識し、精神的安寧を保つための工夫をすることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・「看護師・教員の指導のもとで」を入れる ・「工夫をすることができる」を「工夫方法がわかる」に変更する ・「リラクゼーションの方法がわかる」に変更する ・「種類・方法がわかり、対象の状況に応じて実施できる」に変更する ・実際に何を行うか難しい ・精神的安寧を保つという評価が、全患者において不可能である ・80%の学生に臨床で機会を作れない ・一般的な安楽のレベルである 	<ul style="list-style-type: none"> ・「看護師・教員の指導のもとで」を入れる ・「工夫をすることができる」を「工夫方法がわかる」に変更する ・精神的援助は難しい ・精神的安寧を保つことが必要と理解できていても、工夫するところまでは難しい ・表現が曖昧である ・具体的技術項目として何を求めているのかイメージしづらい ・目標が大きく、評価しづらい

を用いる>ことを含む4項目の到達目標においては、看護実践者から、「卒業後の習得でよい」、「看護師・教員の指導のもとで」という文言を入れるなど、症例・経験が少なく、知識レベルでも80%以上は難しいとの意見が挙げられた。一方、教育者からの意見は、看護実践者と同様の意見が多い傾向ではあるものの、なかには「わかる」を「できる」に変更する、「(一部省略)…できるに変更する」など、到達レベルを上げるべきとの意見も挙げられた。<モデル人形を用いる>到達目標では、モデル人形では経験困難、モデル人形がないなどの意見が教育者から多く挙げられた。

各看護技術の到達目標について【その他】の欄に記述された回答を表に示す(表IV-7)。これらには具体的な看護技術の内容・レベルを提案しているもの、新生児・小児を対象とした看護技術の提案、などが挙げられていた。また、専門家が所属する機関で独自に採用している到達目標が記述されている場合があった。

5.デルファイ第2回目の調査の概要

1)第2回調査票の作成

デルファイ第2回の調査票は、第1回目の到達目標の同意率および同意しない理由・代案として記述された内容を本研究者らによって質的に分析し、到達目標を修正した。また、「到達度」を次のように定めた。

到達度Ⅰ ひとりで実施できる

到達度Ⅱ 看護師・教員の指導のもとで実施できる

到達度Ⅲ 学内演習(モデル人形、あるいは学生間)で実施できる

到達度Ⅳ 知識としてわかる

第2回目の調査では、「卒業時に全員が習得

している到達度(看護師の国家試験受験資格を得るために必要な看護技術の到達度)」として、同意するかしないかを設問にした。

最終的に第1回調査の158項目の到達目標のうち、13項目は理由を明確にした上で削除し、103項目は到達目標の表現等に修正を加え、42項目は修正を加えずにそのままとして、計145項目の到達目標に整理した(表IV-8)。第2回目の調査票は、看護技術項目の13の大項目ははずし、「ベッドメイキング」といったような中項目のみを提示した。また、各到達目標の枠内には、その表現がどの到達度のものか一目でわかるよう、括弧にて到達度を示した。

回答方法は、卒業時に全員が習得している到達度として、同意するか・しないかの二者択一方式にて○印で選択するものとした。また、同意しない場合のうち、到達度に同意しない時は、1.ひとりで実施できる、2.看護師・教員の指導のもとで実施できる、3.学内演習で実施できる、4.知識としてわかる、5.卒業後の習得でよい、の五者択一にて○印をつけて回答するようにし、その他の意見については、6.その他を選び、理由や内容の変更を記載する形式とした(資料IV-4)。

2)第2回の対象者と調査方法

第1回調査で協力が得られた教育者91名と看護実践者98名の計189名を対象者に、デルファイ第1回目の調査結果、第2回目の調査の協力依頼文書、調査票、および返信用封筒を送付した。調査期間は、平成18年1月～2月である。

結果、教育者78名(回収率85.7%)と看護実践者87名(回収率88.8%)の計165名から回答があった。

3)第2回の調査結果

(1)到達目標の同意率について

表IV-7 卒業時の看護技術の到達目標について「その他」に記述された回答(デルファイ第1回目調査結果)

看護技術項目		到達目標についての「その他」の意見
<1> 環境調節技術	環境整備	・高頻度接触面を意識した環境整備ができる,とする
	支援環境の整備	・家族等の状況を評価し、支援体制を整備できる,とする
	療養生活環境の調整	・病室・廊下の危険物を除去できる,とする ・ベッド周囲の環境整備(床頭台、ベッドの汚れの清掃等),とする ・入院療養患者の生活に快適な変化をつくり出すことができる,とする
	リネン交換	・呼吸器装着患者のリネン交換ができる,とする ・牽引治療中のリネン交換ができる,とする ・看護師の指導下でチューブやモニター類を装着している臥床患者のリネン交換ができる,とする ・リネン汚染時に適切な対応ができる,とする
	入室する室の状況	・患者や家族の希望する室の環境か、他患者に及ぼす影響の有無などを考えることができる,とする
<2> 食事援助技術	食事介助	・患者の栄養状態に応じた食事内容および食事にかかわる栄養補給の援助ができる,とする ・嚥下障害のある患者の食事介助の注意点がわかる,とする ・患者自身で食事ができる場合の援助ができる,とする
	経管栄養法(経鼻胃チューブの挿入)	・教職員や看護師の指導・監督のもとに経管栄養チューブが挿入できる,とする
	経管栄養法	・看護師の指導の下、経鼻胃チューブの与薬ができる,とする ・チューブを絆創膏で適切に固定できる,とする ・患者の疾患・状態に応じた流動食の内容がわかる,とする ・胃ろうの管理ができる,とする
	報告・記録ができる	・実施・観察したことを報告・記録できる,とする
	その他	・自己の食生活のアセスメントができる。/自己の食生活の改善点が指摘できる。/自己の食生活の改善が実施できる。、とする ・後片付けができる,とする
<3> 排泄援助技術	便器・尿器の使い方	・看護師の指導下でライン・モニター類を装着したり姿勢の保持が一人では困難な患者のポータブルトイレでの排泄援助ができる(18の患者の条件を変えたものとして必要と考えた),とする
	オムツ交換	・19は、排尿時と排便時に分けた方がよい,とする
	失禁ケア	・排尿誘導などの失禁予防、用具の工夫ができる,とする
	膀胱内留置カテーテル	・膀胱留置カテーテルの挿入の注意点がわかる,とする
	その他	・看護師の指導下でガス抜きができる(ガス抜きは現在ほとんど行われませんが、時々実施されるので必要と考えた),とする
<4> 活動・休息援助技術	移送(車椅子)	・車椅子の操作と注意点がわかる,とする ・車椅子及びブストレッチャーでの移送時の留意点がわかる,とする
	活動と休息の調整	・活動と休息のバランスが適切に維持されているかをアセスメントできる,とする
	体位変換	・片側麻痺のある患者の体位変換ができる,とする ・看護師の指導下でチューブやモニター類を装着している臥床患者の体位変換ができる,とする ・安楽な体位の保持ができる,とする
	その他	・「関節可動域測定」を加える,とする
<5> 清潔・衣生活援助技術	陰部ケア	・ベッド上での(or臥床患者の)陰部洗浄を患者の状態に合わせた方法で実施できる,とする ・陰部ケアを通した患者の観察ができる,とする
	沐浴	・新生児の沐浴が実施できる,とする
	清拭・洗髪	・対象の自立度などを考えた清拭・洗髪ができる,とする
	口腔ケア	・患者の病態・機能に合わせた口腔ケアの方法を選択できる,とする
	寝衣交換など衣生活援助(輸液ライン等が入っている患者)	・点滴中、片麻痺のある患者の病衣交換ができる,とする
	シャワー浴	・シャワー浴の介助ができる,とする
	清潔援助	・清潔に関するセルフケア能力と援助方法についてアセスメントできる,とする
	リフトバスの介助	・(看護師の指導・監視下で)看護師とともに患者のリフトバスでの入浴介助ができる,とする
<6> 呼吸・循環を整える技術	酸素ポンペの操作	・残量と流量から利用時間の計算ができる,とする
	人工呼吸器装着患者のケア	・人工呼吸器装着患者において、器械の管理及びアラームの際の原因とメカニズムがわかる,とする ・人工呼吸器装着中の留意点がわかる,とする
	心電図	・心電図のメカニズムと12誘導がわかる,とする

表IV-7 卒業時の看護技術の到達目標について「その他」に記述された回答(デルファイ第1回目調査結果) 続き

看護技術項目		到達目標についての「その他」の意見
<7> 創傷管理技術	褥創のケア	・褥創の状態に応じたケアがわかる(予防にとどまらずケアの方法も理解できることが望ましい), とする
	創傷処置	・創傷処置に用いられる必要物品がわかり、選択できる, とする ・患者の創傷処置の援助ができる: 教員や看護師の助言・指導のもとに患者に実施できる, とする ・(褥創の状態・評価・DESIGN) 褥創の状態の評価方法がわかる, とする ・創傷のアセスメントができる, とする ・「褥瘡ケア」(創傷と同じ扱い)を加える, とする
	創部ドレーン管理	・創部ドレーンの観察・管理方法がわかる, とする
<8> 与薬の技術	経口・経皮・外用薬の与薬方法	・看護師の指導の下、患者の状況に応じた経口と与薬ができる(92の次に追加), とする
	与薬指示の確認	・医師の指示内容(カルテ、処方箋)の読み方がわかり、薬剤の準備から実施までの確認作業のポイントがわかる, とする
	中心静脈栄養	・中心静脈栄養輸液の管理ができる(刺入部の消毒およびセット交換を含む), とする
	インシュリン製剤の種類・用法・副作用の観察	・インスリン使用中の異常時の対応方法がわかる, とする
	点眼	・モデルに点眼できる, とする
	麻薬の主作用・副作用の観察	・麻薬の種類に応じて適切な投与方法がわかる/麻薬の種類、適切な投与方法がわかる, とする
	採血	・学生間で採血操作ができることも卒業前に到達させた方がいいと思います
注射薬品の調剤	・点滴ボトルやアンプルバイアルなどの取り扱いができることや輸液セットを使って指示量の滴下ができるところまで到達させた方がいいと思います	
その他	・モデル人形に三方活栓の正しい使い方ができる, とする ・モデル人形に、ヘパリンブロックの適切な投与方法がわかる, とする	
<9> 救命救急処置技術	気道確保	・モデル人形で異物の除去、気道確保が実施できる, とする
	除細動	・(除細動)AEDの取り扱いができる, とする ・AEDについて理解できる, とする
	その他	・(救急蘇生時の使用薬剤) 主な薬剤と薬効がわかる, とする
<10> 症状・生体機能管理技術	バイタルサイン(体温、脈拍、呼吸、血圧)の観察	・小児のバイタルサインの測定ができる, とする
	検査時の援助	・看護師の指導の下で、正確な検査が行えるための患者の準備ができる, とする
	検査時の援助: 胃カメラ、気管支鏡、腰椎穿刺、12誘導心電図等)	・正確な検査が行えるため患者の準備ができる(わかる), とする
	検査時の援助	・136と137は、「胃カメラ」の援助にも入れる, とする
その他	・患者の状態変化に応じた報告・連絡・相談の必要性が認識できる, とする ・当大学では与薬の単元の前に「検査」を入れ、単純なものから複雑なものへ配慮している, とする	
<11> 感染予防の技術	スタンダードプリコーションの指導	・スタンダードプリコーションに基づく手洗いの指導ができる, とする
	感染経路別予防策	・感染源により感染経路別予防策が必要であることがわかる, とする
	MRSA対策	・MRSA対策の基本事項がわかる, とする
<12> 安全管理の技術	医療事故予防	・(誤薬事故防止について) 誤薬事故防止のための注意事項がわかる, とする ・拘束する場合の手続きと倫理的配慮がわかる, とする ・療養環境の中で危険性を予測することができる, とする
	感染経路別予防策	・感染経路別予防策の種類と予防策がわかる, とする
	個人情報保護法	・個人情報保護法を理解し、実行できる, とする
	リスクマネジメント	・誤薬を発見した場合の対処方法がわかる, とする
	その他	・転倒・転落事故を発見した場合の対処方法がわかる, とする
<13> 安楽確保の技術	コミュニケーション	・患者とのコミュニケーションを円滑にとることができる, とする
	体位保持(安全帯)	・安全帯の必要な患者に説明と同意を得て安全に行うことができる, とする
その他	・「記録」「連絡・報告」「ボディメカニクス」「指導・教育」「フィジカルエグザミネーション」なども追加してほしい ・「わかる」という表現では目標を評価出来ないで「述べる」「説明できる」に変更する ・一人の学生が実習で体験できる技術は非常に少なく、グループの学生の体験を共有させることで知識レベルで学ばせるしかないところがある。 ・本大学独自として以下を追加している。すべて水準1です。<教育指導>「新生児の養育のための指導」「妊産褥婦の生活指導」「慢性疾患患者の生活指導(行動変容を含む)」「術後合併症予防の指導」「退院指導・退院計画の立案とケースマネジメント」「(精神科)治療的コミュニケーション」 ・これらは成人を対象にした技術ですが、新生児・小児などを対象とする技術はこの中には含まれないのでしょうか?	

表IV-8 デルファイ調査1回目から2回目にかけての到達目標の修正内容

No	到達目標の修正内容
2	「患者の状態に合わせた」を「基本的な」に変更する
3	「看護師・教員の指導のもとで」を入れる
4	「嚥下障害のない患者の食事介助が適切にできる」を「患者の状態に合わせて食事介助ができる」に変更する
5	「対象の」を「患者の」に変更し「(食行動、摂取方法、摂取量)」を入れる
8	「を指導できる」を「がわかる」に変更する
9	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
10	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れて、「心情や社会生活に配慮しながら」を「個別性を反映した」変更し、「指導できる」を「計画できる」に変更する
13	「患者に対して、」を入れる
14	表現が多様に解釈でき、到達レベルとして高すぎることからこの回答を削除する
17	「適切に床上排泄の援助が」を「排泄援助が」に変更する
19	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
20	表現がメカニズムの知識を示し、看護技術ではないことからこの目標を削除する
21	「できる」を「わかる」に変更する
22	「看護師・教員の指導のもとで、」を、「患者の心情に配慮しながら」を削除する
23	「配慮点」を「留意点」に変更する
24	モデル人形での摘便は意味がないと指摘が多いことからこの目標を削除する
25	「導尿または」を入れる
27	「(セット)管理できる。」を「カテーテル固定、ルート管理、感染予防の方法がわかる」に変更する
28	「グリセリン浣腸のメカニズムがわかり」を削除する
29	モデル人形での導尿は意味がないと指摘が多いことからこの目標を削除する
31	「一般的な」をいれ「配慮点」を「留意点」に変更する
32	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
33	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
37	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
38	「できる」を「わかる」に変更する
39	「意識しながら」を「意識した」に変更し「進めることが」を削除する
40	「入眠を促す基本的な」を「基本的な入眠を促す」に変更する
41	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
42	「看護師・教員の指導のもとで、体動制限による」を入れて「基本的な方法を用いて安静による」を削除する
43	「看護師の監視下で患者の」を「看護師・教員の指導のもとで、患者を」に変更する
44	「看護師の監視下で患者のベッドからストレッチャーへの移送が」を「看護師・教員の指導のもとで、患者のストレッチャー移送が」に変更する
45	「看護師の指導・監視下で」を削除し「ができる」を「の方法がわかる」に変更する
47	「看護師・教員の指導のもとで、」をいれて「患者の病態・機能および習慣に配慮しながら」を削除する
48	「特性」を「状態」に変更する
49	「患者の機能や心情に配慮しながら陰部ケアが実施」を「看護師・教員の指導のもとで、陰部の清潔保持の援助が」に変更する
50	「必要性がわかり生体に及ぼす影響」を「必要性と生体に及ぼす影響」に変更する
54	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
55	「通した」を「通して、」に変更する
56	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
57	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
58	「通した」を「通して、」に変更する
60	「輸液ライン等が入っていない」を入れる
61	「看護師の指導・監視下で」を「看護師・教員の指導のもとで、」に変更する
62	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
63	「観察をし、効果の判定ができる」を「観察ができる」に変更する
64	内容が62と重複しているため、この目標を削除する
65	「気道内加湿法の必要性がわかり、気道内加湿法を適切に実施する。」を「看護師・教員の指導のもとで、気道内加湿ができる」に変更する
67	「援助」を入れる
68	「口腔内・鼻腔内吸引のメカニズムがわかり、」を削除する
69	「気管内吸引のメカニズムがわかり、」を削除し「モデル人形を用いて、」を「モデル人形で、」に変更する
70	「気管内吸引時の観察点がわかる」を「気管内吸引時の観察点がある」に変更する
71	「体位ドレナージのメカニズムがわかり、」を削除し「体位ドレナージ法」を「体位ドレナージ」に変更する
73	「学内」を「学内演習」に変更する
74	表現がメカニズムの知識を示し、看護技術ではないことから、この目標を削除する
76	表現がメカニズムの知識を示し、看護技術ではないことから、この目標を削除する
78	同意率が低く、到達レベルが高いとの指摘から、この目標を削除する
79	「ができる」を「の視点がわかる」に変更する
80	「援助」を「ための部分浴・電法・マッサージ」に変更する

表IV-8 デルファイ調査1回目から2回目にかけての到達目標の修正内容 続き

No	到達目標の修正内容
81	表現がメカニズムの知識を示し、看護技術ではないことから、この目標を削除する
83	内容が84と重複しているため、この目標を削除する
85	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
87	「滅菌」を「無菌」に変更する
88	「代表的な」を入れる
89	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れ「創の状態」を「患者の状態」に変更する
90	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
91	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れて、「の作用機序をふまえて、」を削除し「(バツカル錠・内服薬・舌下錠)」をいれる
92	「種類と」を入れる
93	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れて「投与後の」を「投与前後の」に変更する
95	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れて「投与後の」を「投与前後の」に変更する
97	「点滴静脈内注射のメカニズムをふまえ、点滴静脈内注射をうけている患者の観察のポイントがわかる」を「点滴静脈内注射をうけている患者の観察点が変わる」に変更する
98	「中心静脈内栄養のメカニズムをふまえ、中心静脈内栄養をうけている患者の観察のポイントがわかる」を「中心静脈内栄養をうけている患者の観察点が変わる」に変更する
99	「(点滴セットの交換を含む)を削除する」
100	「皮内注射のメカニズムをふまえ、」を削除し、「ポイント」を「点」に変更する
101	「皮下注射のメカニズムをふまえ、」を削除し、「ポイント」を「点」に変更する
102	「人形または学生間で」と「実施」を入れる
103	「筋肉内注射のメカニズムをふまえ、」を削除し、「ポイント」を「点」に変更する
104	「または学生間で」と「実施」を入れる
105	「静脈内注射のメカニズムをふまえ、モデル人形に静脈内注射ができる」を「静脈内注射の実施方法がわかる」に変更する
106	「翼状針を使って、」を削除する
107	「できる」を「わかる」に変更する
108	「静脈内注射法の実施中の異常発生時の対応方法がわかる」を「静脈内注射実施中の異常な状態がわかる」に変更する
110	同意率が低く、到達レベルが高いとの指摘から、この目標を削除する
111	内容が107、112と重複しており、表現も曖昧との指摘から、この目標を削除する
112	「ポイント」を「点」に変更する
113	「適切な」を削除する
114	「ポイント」を「点」に変更する
115	「ポイント」を「点」に変更する
117	「ポイント」を「点」に変更する
119	「下」を「もと」に変更する
121	同意率が低く、到達レベルが高いとの指摘から、この目標を削除する
124	「除細動法」を「除細動」に変更する
126	「できる」を「わかる」に変更する
129	「目的をもって、」を「看護師・教員の指導のもとで、」に変更する
130	「状態」を「一般状態」に変更する
131	「看護師・教員の指導のもとで、」をいれて「解釈できる」を「アセスメントできる」に変更する
132	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
134	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れ「簡易」を削除する
136	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
137	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れ「患者の緊張を和らげるよう配慮しながら」を削除する
138	「がわかり、」を削除する
139	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
140	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
142	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
143	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れて「状況に応じて」を削除する
144	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れ「適切に」を削除する
145	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
146	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
148	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
149	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
150	「学内演習」を入れて「わかる」を「できる」に変更する
151	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
152	「薬剤暴露」を「薬剤の暴露」に変更する
153	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れる
156	「看護師・教員の指導のもとで、」を入れて「体位の特徴がわかり、」を削除する
157	「巻法等身体安楽促進ケアが実施できる」を「看護師・教員の指導のもとで、患者の安楽を促進するためのケアができる」に変更する
158	「患者の緊張緩和の重要性を認識し、精神的安寧を保つための工夫をすることができる」を「看護師・教員の指導のもとで、患者の精神的安寧を保つための工夫を計画できる」に変更する

145 項目の到達目標のうち、全体の同意率が80%以上であった到達目標は131項目であった(表IV-9)。このうち同意率が90%を超えた到達目標は47項目であり、これらはデルファイ第2回目の調査の時点で合意が得られたものと判断した(表IV-10)(表IV-11)。同意率が80%未満であった到達目標は14項目であった。

(2)同意しない場合の到達度の代案について

全体の同意率が80%未満であった14項目の到達目標について、同意しない場合の到達度の代案をみると、【6 患者の栄養状態をアセスメントできる(到達度Ⅰ)】【12 経管栄養法を受けている患者の観察ができる(到達度Ⅰ)】【18 ポータブルトイレでの患者の排泄(到達度Ⅰ)】【52 臥床患者の清拭ができる(到達度Ⅰ)】【80 末梢循環を促進するための部分浴・罨法・マッサージができる(到達度Ⅰ)】【84 褥創予防のためのケアが計画できる(到達度Ⅰ)】【13 看護師・教員の指導のもとで、患者に対して、経鼻胃チューブからの流動食の注入ができる(到達度Ⅱ)】の7項目の到達目標において、到達度を1つ下げて、看護師・教員の指導のもとで実施する(到達度Ⅱ)あるいは学内演習で実施する(到達度Ⅲ)に変更することの意見が多かった。

【27 膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、ルート管理、感染予防の方法がわかる(到達度Ⅳ)】【45 関節可動域訓練の方法がわかる(到達度Ⅳ)】【97 点滴静脈内注射をうけている患者の観察点がわかる(到達度Ⅳ)】【120 急変時の気道確保の方法がわかる(到達度Ⅳ)】の知識としてわかる到達度で示した4項目の到達目標については、到達度ⅡあるいはⅢへ上げる必要があるとの意見が多かった。

【30 基本的なストーマ造設部の管理、パウチ交換の方法がわかる(到達度Ⅳ)】【109 輸液ポン

プの基本的な操作方法がわかる(到達度Ⅳ)】の2項目の到達目標については、到達度ⅡあるいはⅢに上げるとの意見と、「卒業後の習得でよい」との意見とに分かれていた。また、【89 看護師・教員の指導のもとで、患者の状態に応じた創傷保護材が選択できる(到達度Ⅱ)】については、到達度Ⅳに下げる、あるいは「卒業後の到達度でよい」との意見が多かった。

(3)第2回目の調査結果における教育者と看護実践者の同意率および代案の差について

看護実践者の同意率が低かった到達目標のうち、【6 患者の栄養状態をアセスメントできる(到達度Ⅰ)】【12 経管栄養法を受けている患者の観察ができる(到達度Ⅰ)】【30 基本的なストーマ造設部の管理、パウチ交換の方法がわかる(到達度Ⅳ)】【45 関節可動域訓練の方法がわかる(到達度Ⅳ)】【52 臥床患者の清拭ができる(到達度Ⅰ)】【84 褥創予防のためのケアが計画できる(到達度Ⅰ)】の項目は同意率が特に低く、そのため教育者の同意率が高いにもかかわらず、全体の同意率が80%未満になっていた。これらを含めて看護実践者の同意率が低かった到達目標について、その代案の意見をみると、ほとんどが到達度を1つ下げることが挙げられていた。

教育者の同意率が低かった5項目の到達目標は、すべて学内演習で実施できる(到達度Ⅲ)レベルを示す項目であった。その代案として、到達度Ⅱに上げるとの意見が多かったが、【102 モデル人形または学生間で皮下注射が実施できる(到達度Ⅲ)】【106 モデル人形に点滴静脈内注射が実施できる(到達度Ⅲ)】については、到達度Ⅱに上げるとの意見と到達度Ⅳあるいは「卒業後の習得でよい」との意見に分かれていた。